

## 使用テキスト

配本年度

『改訂新版 指揮法教程』 斎藤秀雄著(音楽之友社)

2011年度～

## 科目概要

合奏・合唱において必要な指揮の技法の基本を習得する。

斎藤秀雄氏の『指揮法教程』は指揮者の対応すべき用法を分析し、「叩き」「平均運動」「しゃくい」「先入」「ひっかけ」といった名称を与えて分類整理し、指揮の技法を確立した。基礎訓練によってその運動能力を獲得し、実際の曲の中で演奏技術として正しく使えるよう学習する。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

指揮法の基本を習得し、合奏・合唱等の指揮において、分かりやすく、かつ音楽性も表現できる指揮を目指す。

## ■ 科目の学習要点事項

- ・『指揮法教程』に分類された指揮の技法それぞれの習得
- ・実際の曲において、どの技法をどこでどのように使い分けるかの分析

## 参考文献

- ・『完本指揮法入門』高階正光著(音楽之友社)
- ・『楽典 理論と実践』石桁真礼夫他共著(音楽之友社)

## 評価基準

## ■ レポート評価

- ・『指揮法教程』の読み込みができていないか。指揮者として振るべき形がイメージできているか。それを言葉で説明できるか。
- ・「君が代」は比較的变化の乏しい曲であるが、基本中の基本と考える。この課題から「斎藤指揮法」に対する理解度を判断する。
- ・「仰げば尊し」は多少技術を要する。アウフタクトの振り出しとフェルマータの止め方及びその後の振り出しがポイント。8分の6拍子の図形で2拍目と5拍目を省略する「基本変形」まで指示できることが望ましい。教科書をどこまで読み込んでいるか判断する。

## ■ 科目終了試験評価

課題となっているのは、楽譜を開いた時にかかなりの頻度で目にする楽語の類いと、楽器や音階についての知識で、指揮者ならば当然知っているべき事柄である。比較的易しいものからやや難解なものまでであるが、「説明」を求められている場合は、ただ意味を書くだけではなく「説明」すること。

『五線譜の約束』 阪井恵・有本真紀・小暮朋佳・中里南子(明星大学出版部)

2020 年度～

## 科目概要

西洋音楽の基礎的な楽典を学び、五線譜を正確かつ音楽的に読み取る力を養う。  
常に音の響きを耳で確かめ、理論上の知識と実際の音楽とのつながりを感じながら学習を進めていくこと。

## 学習上の目標

### ■ 科目の到達目標

五線記譜法を正確に理解し、基礎的な楽典の知識が身につく。  
さらに、それを演奏や音楽指導にも生かしていけるようになる。

### ■ 科目の学習要点事項

1. 西洋音楽の基礎的な楽典事項の理解
2. 理論上の知識を、実際の音楽のより深く豊かな理解につなげていく。

## 参考文献

『楽典 理論と実習』石桁真礼生 他著(音楽之友社)

『一番よくわかる楽典入門』木下牧子監修(ナツメ社)

『絶対！わかる楽典 100 のコツ』小谷野謙一著(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス出版部)

## 評価基準

### ■ レポート評価

テキストで学習した事柄をもとにして主体的に考え、音楽的で正確な理解ができているか。

### ■ 科目終了試験評価

基礎的な楽典の知識が確実に身についているか。

『五線譜の約束』 阪井恵・有本真紀・小暮朋佳・中里南子(明星大学出版部)

2020 年度～

## 科目概要

西洋音楽の基礎的な楽典を学び、五線譜を正確かつ音楽的に読み取る力を養う。  
常に音の響きを耳で確かめ、理論上の知識と実際の音楽とのつながりを感じながら学習を進めていくこと。

## 学習上の目標

### ■ 科目の到達目標

五線記譜法を正確に理解し、基礎的な楽典の知識が身につく。  
さらに、それを演奏や音楽指導にも生かしていけるようになる。

### ■ 科目の学習要点事項

1. 西洋音楽の基礎的な楽典事項の理解
2. 理論上の知識を、実際の音楽のより深く豊かな理解につなげていく。

## 参考文献

『楽典 理論と実習』石桁真礼生 他著(音楽之友社)

『一番よくわかる楽典入門』木下牧子監修(ナツメ社)

『絶対！わかる楽典 100 のコツ』小谷野謙一著(ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス出版部)

## 評価基準

### ■ レポート評価

テキストで学習した事柄をもとにして主体的に考え、音楽的で正確な理解ができているか。

### ■ 科目終了試験評価

基礎的な楽典の知識が確実に身についているか。

## 使用テキスト

配本年度

『高校音楽 I 改訂版 Music View』 新実徳英他 編著 (教育出版株式会社)

2020 年度～

## 科目概要

中等教育における音楽授業を計画し実施できるために、それに必要な範囲で、音楽理論の正しい知識と運用の仕方を身に付ける科目である。「音楽理論1」で学んだ基礎的な知識を、高等学校で使用されている検定教科書の内容に応用することを通して、自らの音楽活動や音楽指導の実践力につなげる。

また同じく高校教科書の記述に沿いながら、日本の伝統音楽、世界の諸民族の音楽に関しても、音楽理論的な観点から正しい理解を身に付けていく。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

1. 音楽理論の基礎(楽典の知識)を、中等教育における音楽の教科書に掲載されている楽曲の、分析や表現に生かす方法を知る。
2. 中等教育における音楽の教科書の記述の範囲で、日本の伝統音楽と世界の諸民族の音楽について、音楽理論的な観点から正しい知識を身に付ける。

## ■ 科目の学習要点事項

1. 「音楽理論1」の復習
2. 1. で学習したことの意味を、教科書の楽曲を弾いたり歌ったりしながら、音の響きとして認識すること。
3. 音楽理論の知識にも裏打ちされた形で、変奏や即興を試してみること。
4. ギターに関する知識
5. 日本の伝統音楽に関する正しい知識
6. 世界の諸民族の音楽に関する知識

## 参考文献

『五線譜の約束』明星大学出版部  
文化デジタルライブラリー ウェブサイト

## 評価基準

## ■ レポート評価

知識事項は、丁寧に勉強すれば正解を出せる課題ばかりです。地道な学習の様子が伝われば、合格。記述式の問題は、教科書等から得られる知識だけでなく、自ら演奏してみた実感などに基づき、自分で構成して書きましよう。

## ■ 科目終了試験評価

レポート課題とほぼ同じ問題が出題されます。レポートの段階で、きちんと学習していれば合格できます。特に、楽曲に関しては、実際に聴いたり演奏したりすることを通じ、しっかりと身に付けておくことが肝要です。

## 使用テキスト

配本年度

『高校音楽 I 改訂版 Music View』 新実徳英他 編著 (教育出版株式会社)

2020 年度～

## 科目概要

中等教育における音楽授業を計画し実施できるために、それに必要な範囲で、音楽理論の正しい知識と運用の仕方を身に付ける科目である。「音楽理論1」で学んだ基礎的な知識を、高等学校で使用されている検定教科書の内容に応用することを通して、自らの音楽活動や音楽指導の実践力につなげる。

また同じく高校教科書の記述に沿いながら、日本の伝統音楽、世界の諸民族の音楽に関しても、音楽理論的な観点から正しい理解を身に付けていく。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

1. 音楽理論の基礎(楽典の知識)を、中等教育における音楽の教科書に掲載されている楽曲の、分析や表現に生かす方法を知る。
2. 中等教育における音楽の教科書の記述の範囲で、日本の伝統音楽と世界の諸民族の音楽について、音楽理論的な観点から正しい知識を身に付ける。

## ■ 科目の学習要点事項

1. 「音楽理論1」の復習
2. 1. で学習したことの意味を、教科書の楽曲を弾いたり歌ったりしながら、音の響きとして認識すること。
3. 音楽理論の知識にも裏打ちされた形で、変奏や即興を試してみることに。
4. ギターに関する知識
5. 日本の伝統音楽に関する正しい知識
6. 世界の諸民族の音楽に関する知識

## 参考文献

『五線譜の約束』明星大学出版部  
文化デジタルライブラリー ウェブサイト

## 評価基準

## ■ レポート評価

知識事項は、丁寧に勉強すれば正解を出せる課題ばかりです。地道な学習の様子が伝われば、合格。記述式の問題は、教科書等から得られる知識だけでなく、自ら演奏してみた実感などに基づき、自分で構成して書きましよう。

## ■ 科目終了試験評価

レポート課題とほぼ同じ問題が出題されます。レポートの段階で、きちんと学習していれば合格できます。特に、楽曲に関しては、実際に聴いたり演奏したりすることを通じ、しっかりと身に付けておくことが肝要です。

PH2100

作曲・編曲法1(基礎)

担当教員

板野 和彦

受講方法

RT

使用テキスト

配本年度

『いちばんやさしい改訂 和声学入門』青山梓 オンキョウパブリッシュ 2011年度～2020年度  
『はじめての和声学』青山梓 メトロポリタンプレス 2021年度～

科目概要

1. 簡単な2小節程度のメロディーのモチーフを与え、8～16小節のメロディーを作曲させる。
2. 主要三和音の適正な使用により、メロディーにピアノ伴奏を付ける。
3. 自作のモチーフによる16～32小節程度のピアノあるいは歌あるいは他の楽器のための作曲を行う。
4. 以上の活動を通して完成した作品を共有したり、評価しあったりするための演奏や発表の場を設けることも併せて行う。

学習上の目標

■科目の到達目標

主要三和音の適正な使用による16～32小節程度のピアノ曲、歌曲等を作曲できるようになる。

■科目の学習要点事項

1. 与えられたモチーフによる8小節程度のメロディを作曲する。長調および短調
2. 上記のメロディーに主要三和音および属七の和音を使用し簡単な楽曲を作曲する
3. 副三和音及び副七の和音を使用。そして簡単な転調を含む32小節の楽曲を作曲する。
4. 歌曲あるいは小規模な室内楽を作曲する。

参考文献

『五線譜の約束』阪井恵他著(明星大学出版部)  
『子供のためのピアノ曲集「サーカス」』堤政雄著(現代企画室)  
『音楽基礎技法』松本民之助著(音楽教育図書株式会社)

評価基準

■レポート評価

4/4拍子、3/4拍子、6/8拍子等の拍子の作曲法的理解、主要三和音を基本として、属七、二度、六度等の和声の理解と使用が正しくなされているか。

■科目終了試験評価

与えられたモチーフによる、16小節から32小節程度の簡単なピアノ曲等の作曲をする。

## 使用テキスト

配本年度

『最新 中等科音楽科教育法〔改訂版〕中学校・高等学校教員養成課程用』

中等科音楽教育研究会(音楽之友社) 2011年度～ 2020年度

『改訂版 最新中等科音楽教育法』中等科音楽教育研究会(音楽之友社)

2021年度

## 科目概要

音楽科の内容と指導方法について学習指導要領を中心にいくつかの重視すべき視点から検討することにより、子どもたちの音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにすることができるようにする。また、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養ってゆくための授業を展開できるようにする。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

1. 音楽科教育の具体的な内容の理解を深める。
2. 子どもたちの活動を援助、指導するための知識をその発達とあわせて学ぶ。

## ■ 科目の学習要点事項

1. 学習指導要領の変遷と今日の課題
2. 音楽科のねらいと内容
3. 指導計画の立案についての考え方
4. 子どもの発達と音楽
5. 音楽の活動
6. 教師の指導や援助の重要性

## 参考文献

『中学校学習指導要領解説 音楽編』(教育芸術社、平成20年版)

『高等学校学習指導要領解説 芸術編』(平成21年版)

『中学校の音楽教科書』(2社分計8冊)

『音楽科の学習指導』(国立音楽大学編)

## 評価基準

## ■ レポート評価

- ・レポートの最後に自分自身の意見や考察を加えること。
- ・作成にあたって、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。

## ■ 科目終了試験評価

- ・評価は問題の意図しているキーワードを先ず把握しているかどうかを見る。そのキーワードを中心に据えた論述となっているかどうかを点検する。その上で自分自身の意見や考察を加えること。

## 使用テキスト

配本年度

『大人の音楽史入門(CD付き)』 長沼由美・二藤宏美著(ヤマハミュージックメディア) 2019年度～

## 科目概要

西洋音楽の黎明期から中世、ルネッサンス、バロック、古典派、ロマン派、近現代までの流れをつかみ、実際に作品を聴くことを通じ、各時代様式の特徴を理解する。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

- ① 西洋音楽の流れと各時代の音楽様式を、楽曲を聴いて知ることを通じて理解する。
- ② 西洋音楽史上の出来事を、同時代の世界情勢(特に日本の状況)の文脈に置いて、深く理解する。

## ■ 科目の学習要点事項

教科書付属のCDの50曲の冒頭部をよく聴くことは必須である。出来るだけそれらの曲を入手し、全体を聴くこと。教科書の内容と対照して、自分なりの理解を定着させること。

## 参考文献

田村和紀夫『CD付徹底図解 クラシック音楽の世界』新星出版社 ISBN: 978-4405106987

岡田暁夫『西洋音楽史―「クラシック」の黄昏』中公新書 ISBN:978-4121018168

などが比較的安価で充実の内容です。

しかし本レポートの2番の課題に対しては、これら権威ある専門家の言葉を借りず、自分の感性を生かしてほしいと思います。

## 評価基準

## ■ レポート評価

1 単位目、2 単位目ともに、1 番の問題は正しくまとめられていれば合格です。

2 番の問題は、選んだ作曲家・作品について

- ① 基本知識が正しいこと
  - ② 「作品をよく聴いて、自分で感じ考えたことが基になっている記述」であることが伝わること
- 以上が合格の基準となります。

## ■ 科目終了試験評価

対象とする時代は古代から現代までと長いので大変ですが、教科書に書いてあること以上の解答は求めません。教科書の熟読と理解が唯一の対策です。厳密な年号などは求めませんが、「○世紀前半/後半」程度に正しく時代を覚えながら、音楽史の流れを理解し、設問に答えていけば合格です。

## 使用テキスト

配本年度

『最新 中等科音楽教育法 2017/18「中学校・高等学校学習指導要領」準拠』（音楽之友社）

2020 年度

『改訂版 最新中等科音楽教育法 2017/18 年告示「中学校・高等学校学習指導要領」準拠 中学校・高等学校教員養成課程用』中等科音楽教育研究会 編(音楽之友社)

2021 年度～

## 科目概要

中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽を運営できるようにするための、基礎的な知識と技能を学ぶ科目である。学習指導要領に則って音楽科の学習活動を立案する力を養い、授業では生徒を適切に指導できるように、必要な実践力を身に付ける。「音楽科教育法2」では特に、教材曲の音楽的な特徴をつかみ、表現を工夫する方法を知る。またそれに基づき、生徒の思考・判断と表現の工夫を引き出す方法を学ぶ。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

1. 歌唱共通教材全7曲をよく学び、教材として、余裕をもって扱えるようにする。
2. 上記1. の学習過程を通じて、音楽の授業では、生徒にどのような投げかけを行い、どのようなことを理解させ考えさせて、表現の工夫を導くのかを知る。

## ■ 科目の学習要点事項

1. 中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽 に示されている内容の正しい理解。
2. 上記1の中で[共通事項](1)アに示されている、「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連」「それらの働きが生み出す特質や雰囲気」に関する理解。特に、「歌唱共通教材曲」に即した正しい理解。
3. 生徒の思考を引き出し、それに基づいた表現の工夫を導く授業の構想。

## 参考文献

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』文部科学省 平成29年

## 評価基準

## ■ レポート評価

- 1 単位目は、3曲について、音楽的な見方による記述ができており、また自分で実際に歌って考えていることが伝われば合格。文字数は各曲最低400字を求めます。
- 2 単位目は、ワークシートを記入することにより、「生徒の音楽的な見方が深まるか」、「正しい知識を伝えるものか」、「授業への参加が楽しくなりそうか」、を評価の観点とします。

## ■ 科目終了試験評価

7曲の歌唱共通教材について、よく学習してあり、頭に入っていることを前提としての問題が出ます。曲に関する知識事項(教科書の調、拍子、作詞・作曲者、曲の背景、歌詞の内容など)が頭に入っているか、音楽的な見方で楽曲を理解し、表現の仕方を考えているか、を問います。レポートをきちんと作成していることで、合格ラインの60点は取れます。

## 使用テキスト

配本年度

『最新 中等科音楽科教育法〔改訂版〕中学校・高等学校教員養成課程用』

中等科音楽教育研究会(音楽之友社)

2011年度～2020年度

『改訂版 最新中等科音楽教育法』中等科音楽教育研究会(音楽之友社)

2021年度～

## 科目概要

音楽科教育法2から引き続き、音楽科の内容と指導方法について学習指導要領を中心にいくつかの重視すべき視点から検討することにより、子どもたちの音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにすることができるようにする。また、音楽活動の基礎力を養うとともに応用的な能力を高め、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養って行くための授業を展開できるようにする。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

1. 音楽科教育の具体的な内容について理解を深める。
2. 子どもたちの活動をより深く援助、指導するための知識をその発達とあわせて学ぶ。

## ■ 科目の学習要点事項

1. 学習指導要領で求められる子どもたちの主体的な表現の活動や創作の活動について
2. 音楽科のねらいと内容
3. 子どもたちの主体性を引き出す指導
4. 子どもの発達と音楽

## 参考文献

『中学校学習指導要領解説 音楽編』(教育芸術社、平成20年版)

『高等学校学習指導要領解説 芸術編』(平成21年版)

『中学校の音楽教科書』(2社分計8冊)

『音楽科の学習指導』(国立音楽大学編)

## 評価基準

## ■ レポート評価

- ・レポートの最後に自分自身の意見や考察、可能であれば自分の体験した事例などを加えること。
- ・作成にあたって、レポート課題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。

## ■ 科目終了試験評価

評価は問題の意図しているキーワードを把握しているかどうかを見る。そのキーワードを中心に捉えた論述となっているかどうかを点検する。その上で自分自身の意見や考察が適切に加えられているかを点検し、以上を総合的に評価する。

## 使用テキスト

配本年度

『高校音楽 I 改訂版 Music View』 新実徳英他 編著(教育出版株式会社)

2020 年度～

## 科目概要

中学校及び高等学校芸術科「音楽」運営できるようにするため、基礎的な知識と技能を身に付ける科目である。基礎とはいえ、教科書教材について確かな知識を持ち、学習指導要領に則った目配りをしながら、授業の計画と実施ができるようにする。「音楽科教育法4」では特に、日本の伝統音楽、諸民族の音楽を教材化するための基本的な知識を身に付ける。

## 学習上の目標

## ■ 科目の到達目標

1. 教科書に載っている日本の伝統音楽、諸民族の音楽についての知識を身に付け、中等教育の音楽科授業で扱うことができる。
2. 使用テキストとした高校の教科書の内容を正しく理解し、それらを教材とした授業の構想ができる。

## ■ 科目の学習要点事項

1. 教科書の精読。
2. 教科書に掲載されている楽曲や、それが生まれた背景等を知ること。
3. 2. のためには、教科書においてもページが割かれている音楽史(西洋・日本)及び楽典についても随時読み、理解を深めること。

## 参考文献

『最新 中等科音楽教育法 2017/18「中学校・高等学校学習指導要領」準拠』音楽之友社

\* 各校種の、最新版の学習指導要領が挟み込まれているので、それも活用してください。

『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 音楽編』文部科学省

『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』文部科学省

\* 以上 2 編は、文部科学省 HP から見ることもできます。

## 評価基準

## ■ レポート評価

知識事項は、全問正解を求めます。その他はやや高度なので、問題があれば添削の上、再提出を求めています。今の段階で完璧である必要はありません。教師になり、授業をする、ということを真摯に考えて準備を進めている姿勢が大切です。

## ■ 科目終了試験評価

レポート課題とほぼ同じ内容の問題が出題されます。考えて理解しながら、レポート課題をこなしていることが、合格につながります。60 点以上取れなければもちろん不合格です。